

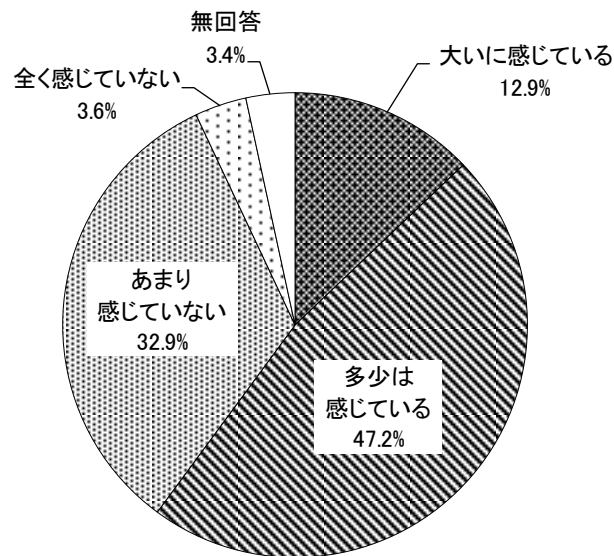
15 食の安全・安心について

(1) 食品の安全性に対する不安

問43 あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。次の中から1つ選んでください。

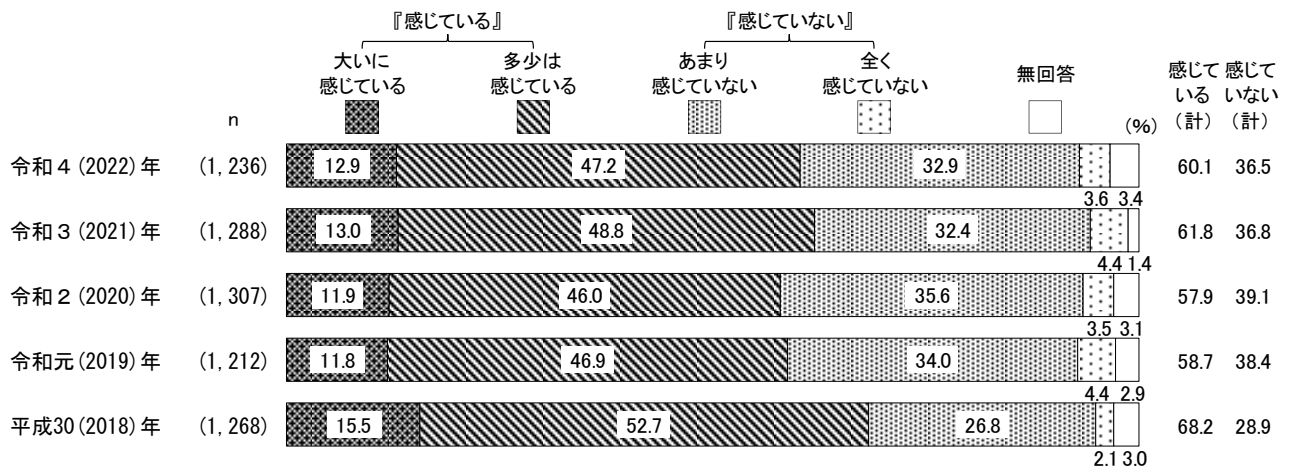
[n=1,236]

1 大いに感じている	12.9%	3 あまり感じていない	32.9%
2 多少は感じている	47.2%	4 全く感じていない	3.6%
		(無回答)	3.4%



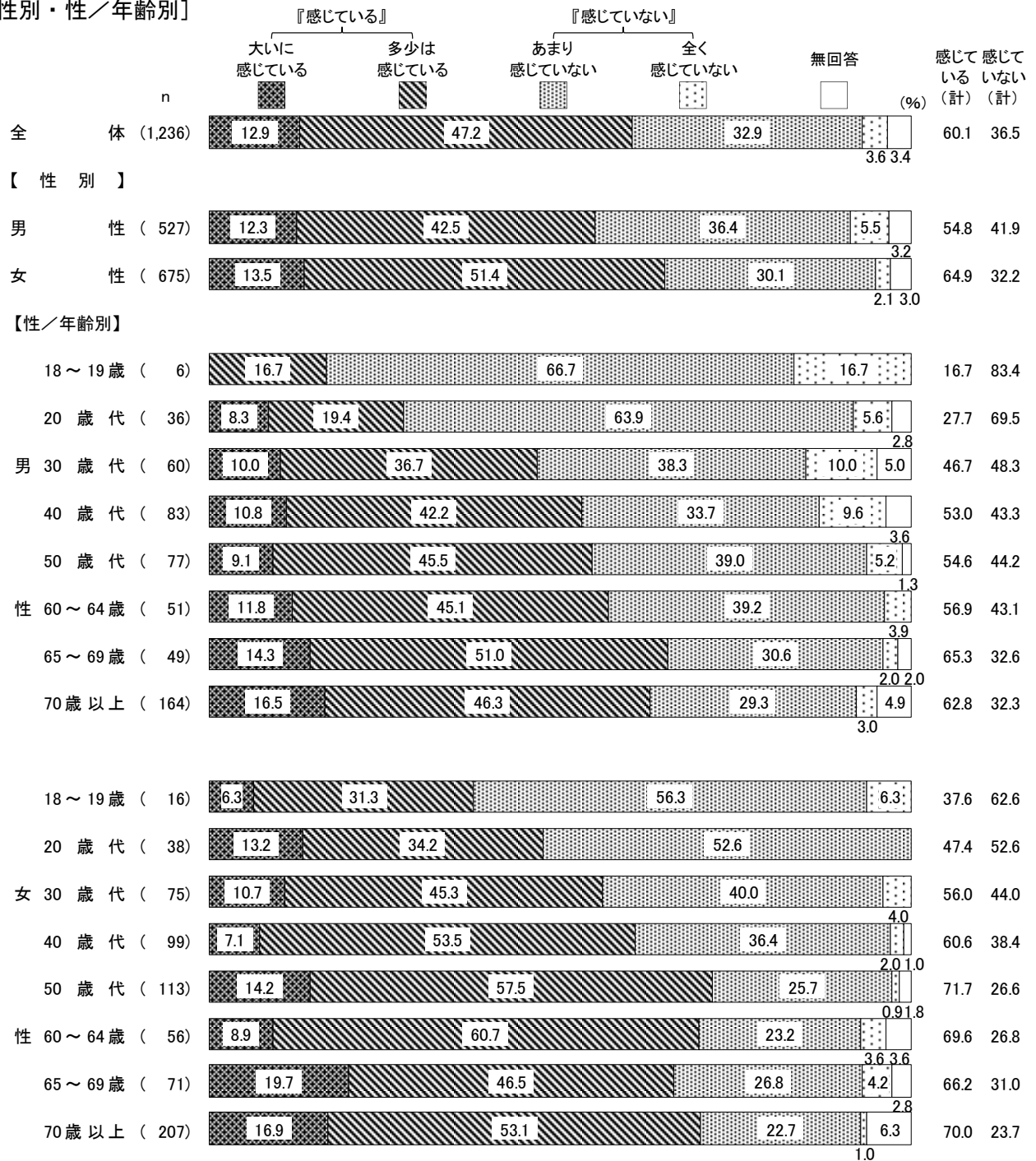
(n=1,236)

全体でみると、「大いに感じている」(12.9%)と「多少は感じている」(47.2%)の2つを合わせた『感じている』(60.1%)は約6割と高くなっている。一方、「あまり感じていない」(32.9%)と「全く感じていない」(3.6%)の2つを合わせた『感じていない』(36.5%)は3割台半ばを超えている。



過去の調査結果と比較すると、前回(令和3(2021)年)と大きな傾向の違いはみられない。

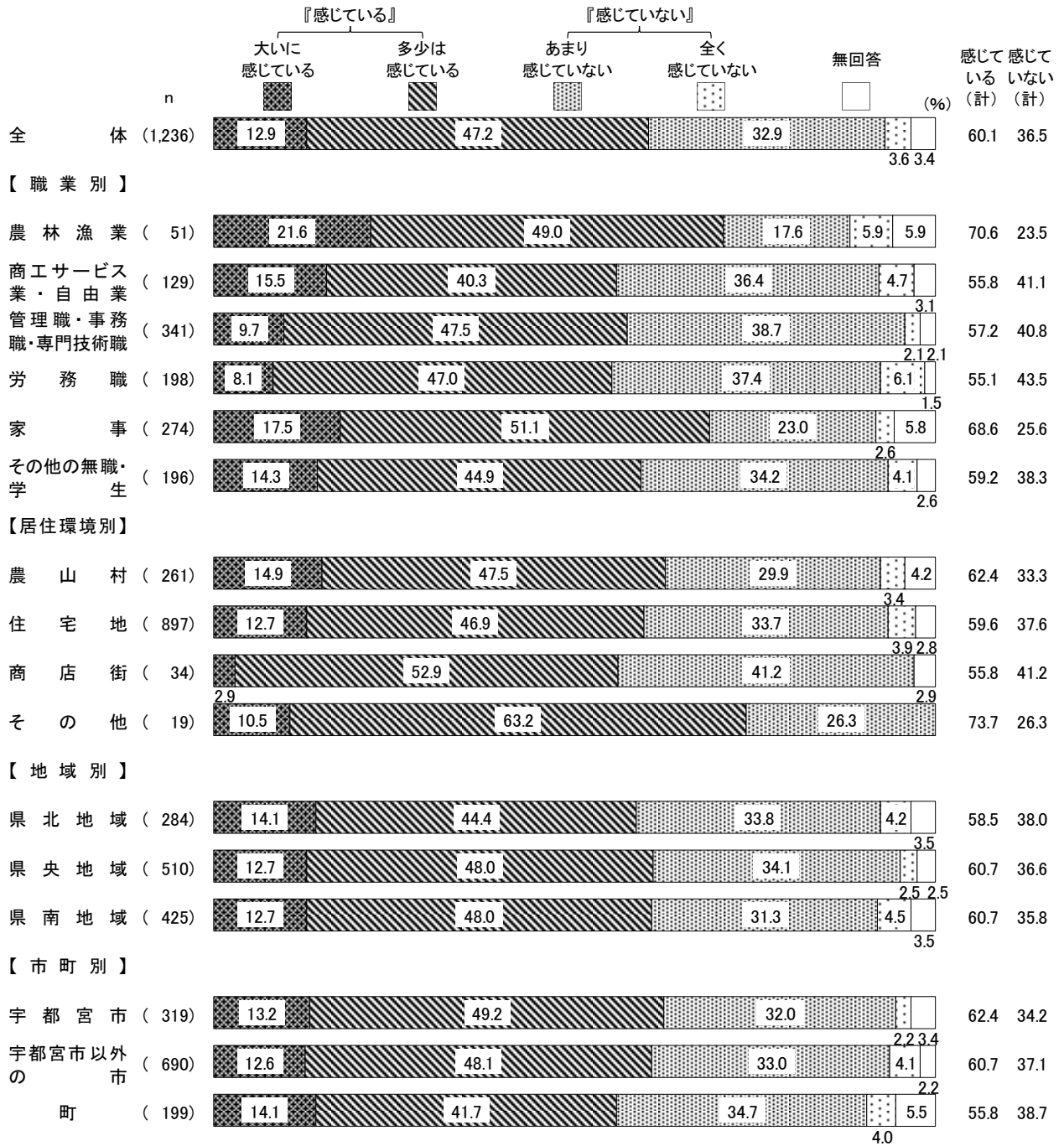
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『感じている』では〈女性〉(64.9%)が〈男性〉(54.8%)より10.1ポイント高くなっている。一方、『感じていない』では〈男性〉(41.9%)が〈女性〉(32.2%)より9.7ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『感じている』では〈女性50歳代〉が71.7%と高くなっている。一方、『感じていない』では〈男性20歳代〉が69.5%、〈女性20歳代〉が52.6%、〈男性30歳代〉が48.3%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、『感じている』では〈農林漁業〉が70.6%と高くなっている。

居住環境別でみると、『感じている』・『感じていない』では大きな傾向の違いはみられない。「多少は感じている」では〈商店街〉が52.9%と高くなっている。

地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

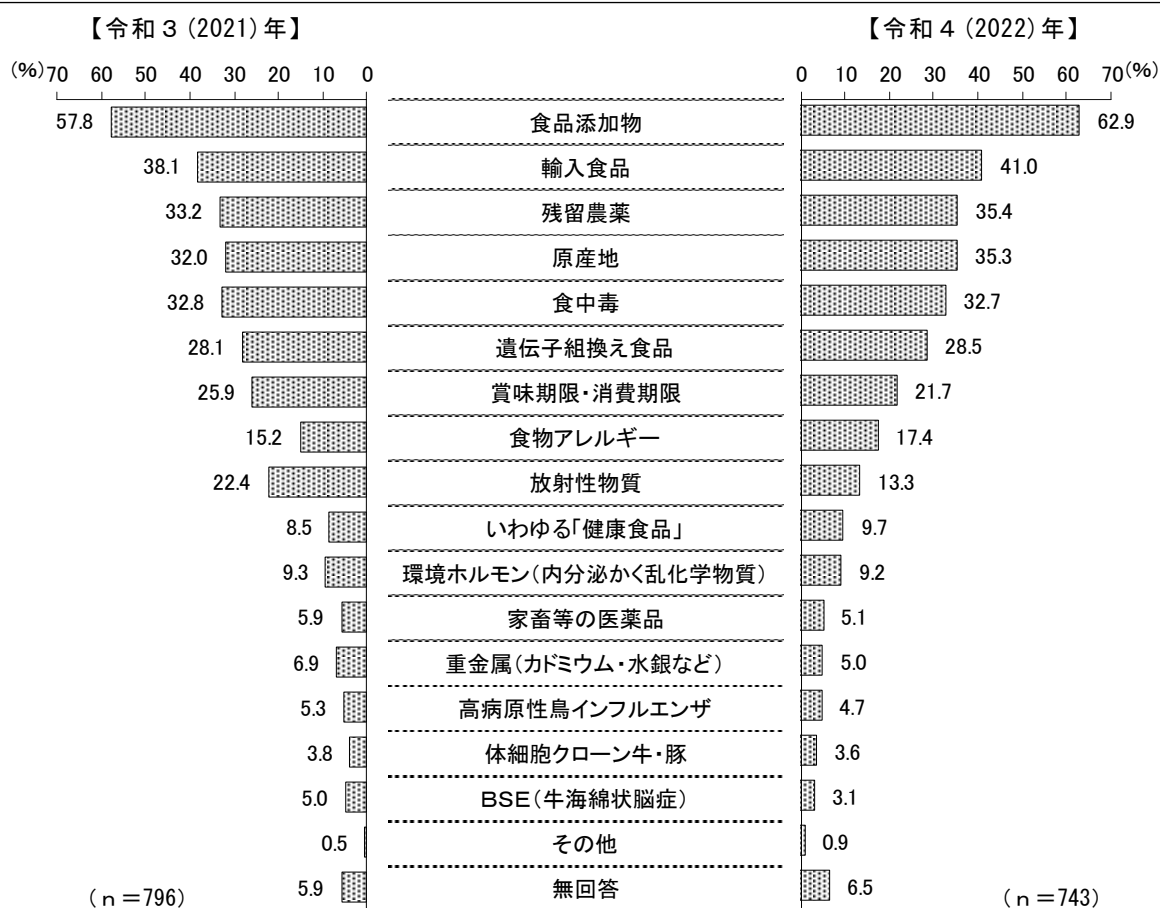
(2) 食品の安全性について不安に思うもの

(問43で選択肢「大いに感じている」、「多少は感じている」を選んだ方のみお答えください)

問44 あなたは、食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。次の中から4つまで選んでください。

[n = 743]

1	食中毒	32.7%	10	遺伝子組換え食品	28.5%
2	食品添加物	62.9	11	輸入食品	41.0
3	いわゆる「健康食品」	9.7	12	BSE(牛海綿状脳症)	3.1
4	放射性物質	13.3	13	高病原性鳥インフルエンザ	4.7
5	重金属(カドミウム・水銀など)	5.0	14	体細胞クローン牛・豚	3.6
6	残留農薬	35.4	15	家畜等の医薬品	5.1
7	食物アレルギー	17.4	16	環境ホルモン(内分泌かく乱物質)	9.2
8	賞味期限・消費期限	21.7	17	その他	0.9
9	原産地	35.3		(無回答)	6.5

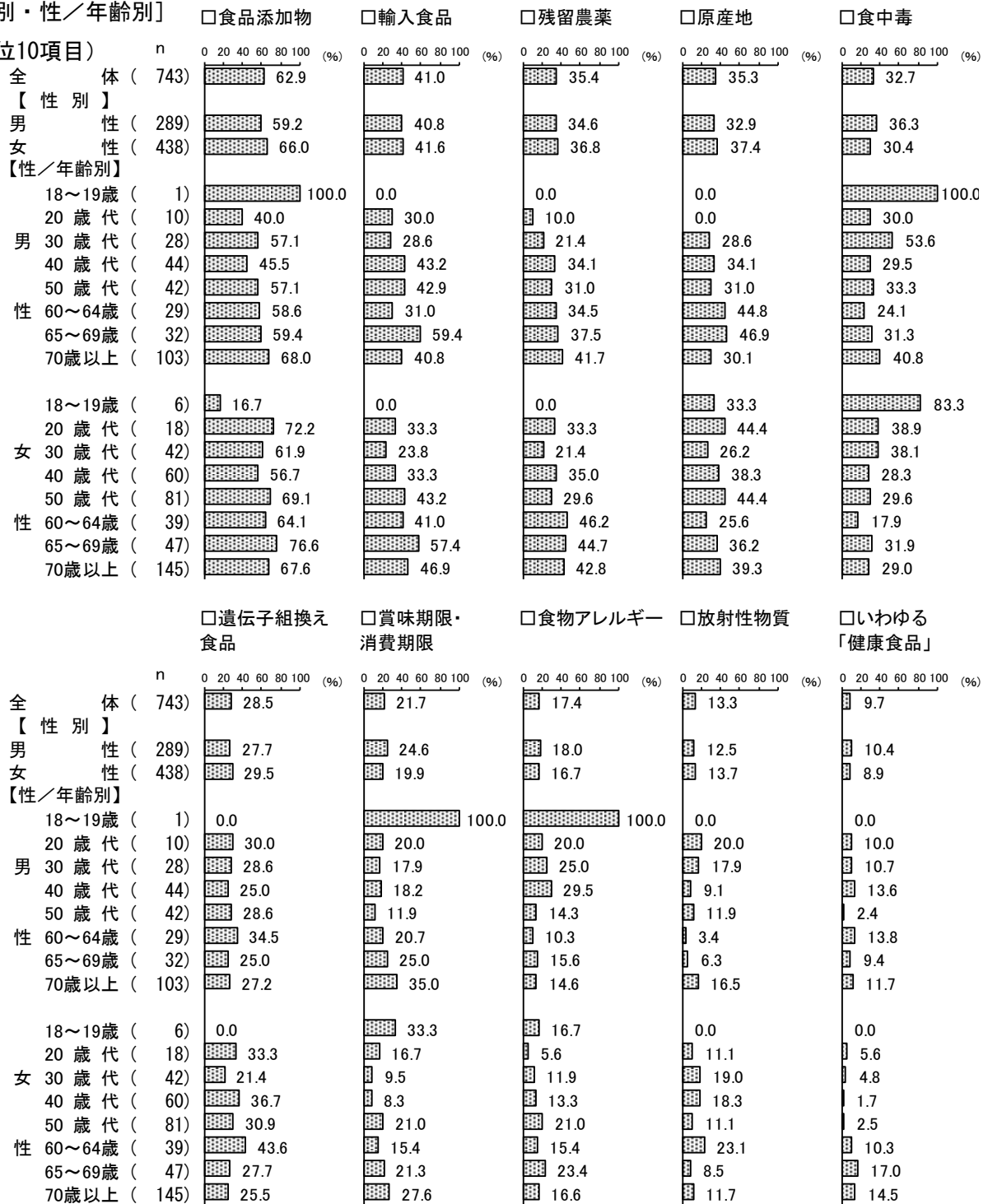


全体でみると、「食品添加物」(62.9%)が6割強で最も高く、次いで「輸入食品」(41.0%)、「残留農薬」(35.4%)、「原産地」(35.3%)、「食中毒」(32.7%)の順となっている。

前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、「食品添加物」が5.1ポイント増加している。一方、「放射性物質」が9.1ポイント減少している。

[性別・性／年齢別]

(上位10項目)

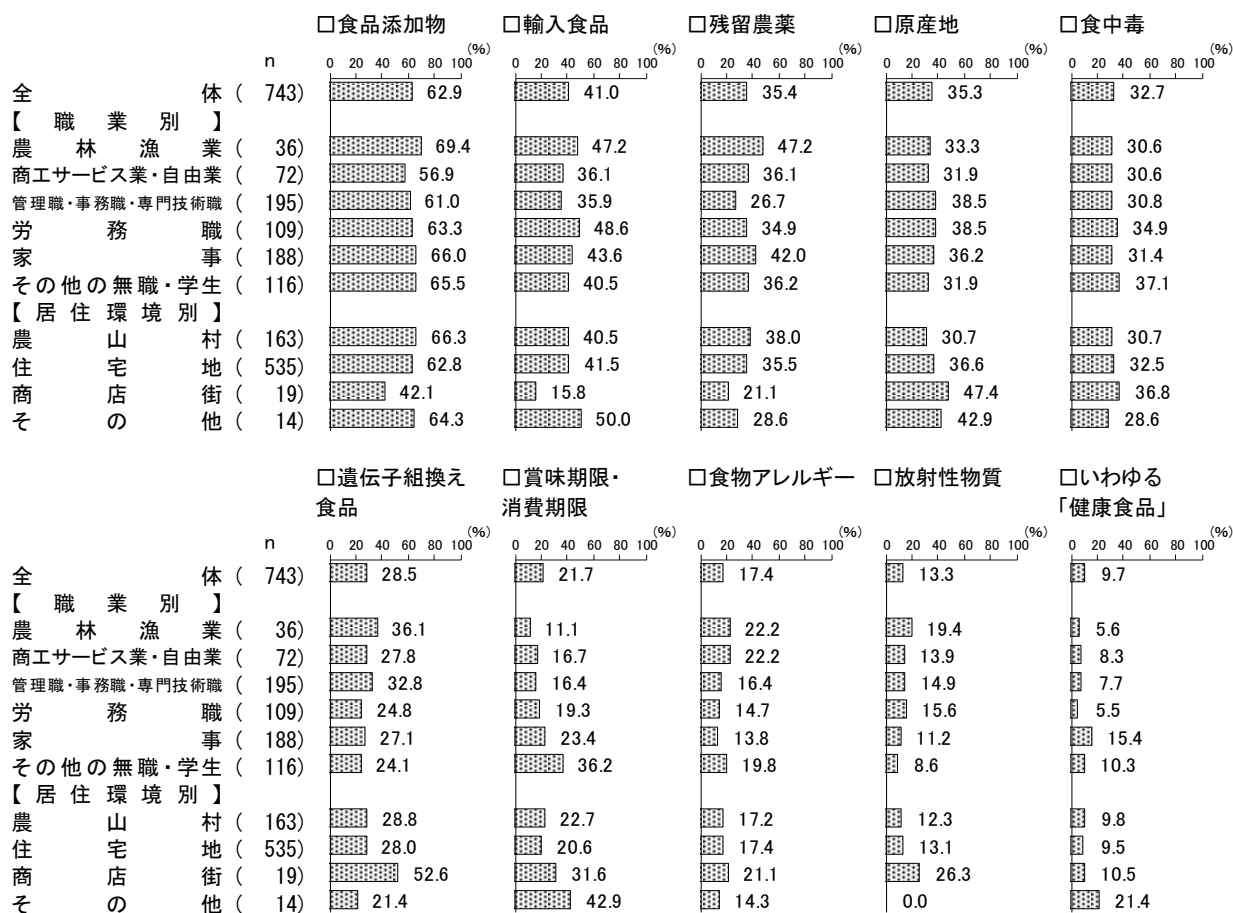


性別でみると、「食品添加物」では〈女性〉(66.0%)が〈男性〉(59.2%)より6.8ポイント高くなっている。「食中毒」では〈男性〉(36.3%)が〈女性〉(30.4%)より5.9ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「食品添加物」では〈女性65~69歳〉が76.6%と高くなっている。「輸入食品」では〈男性65~69歳〉が59.4%、〈女性65~69歳〉が57.4%と高くなっている。「残留農薬」では〈女性60~64歳〉が46.2%と高くなっている。「原産地」では〈男性65~69歳〉が46.9%と高くなっている。「食中毒」では〈男性30歳代〉が53.6%と高くなっている。「遺伝子組換え食品」では〈女性60~64歳〉が43.6%と高くなっている。「賞味期限・消費期限」では〈男性70歳以上〉が35.0%と高くなっている。「食物アレルギー」では〈男性40歳代〉が29.5%と高くなっている。

[職業別・居住環境別]

(上位10項目)



職業別でみると、「残留農薬」では〈農林漁業〉が47.2%と高くなっている。「賞味期限・消費期限」では〈その他の無職・学生〉が36.2%と高くなっている。

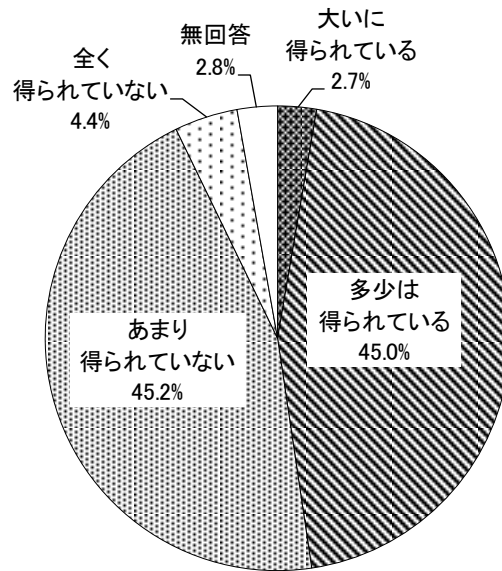
居住環境別でみると、「原産地」では〈商店街〉が47.4%と高くなっている。「遺伝子組換え食品」では〈商店街〉が52.6%と高くなっている。「賞味期限・消費期限」では〈商店街〉が31.6%と高くなっている。「放射性物質」では〈商店街〉が26.3%と高くなっている。

(3) 食の安全に関する情報を得られているか

問45 あなたは、食の安全に関する正しい知識や情報を得られていると感じていますか。次の中から1つ選んでください。

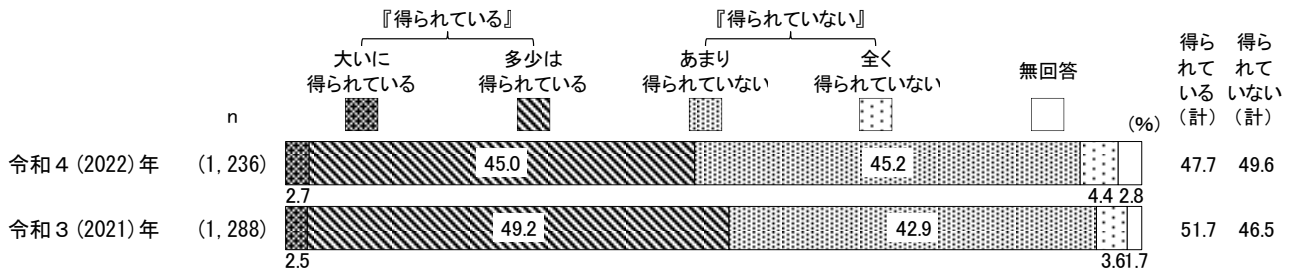
[n=1,236]

1	大いに得られている	2.7%	3	あまり得られていない	45.2%
2	多少は得られている	45.0%	4	全く得られていない	4.4%
				(無回答)	2.8%



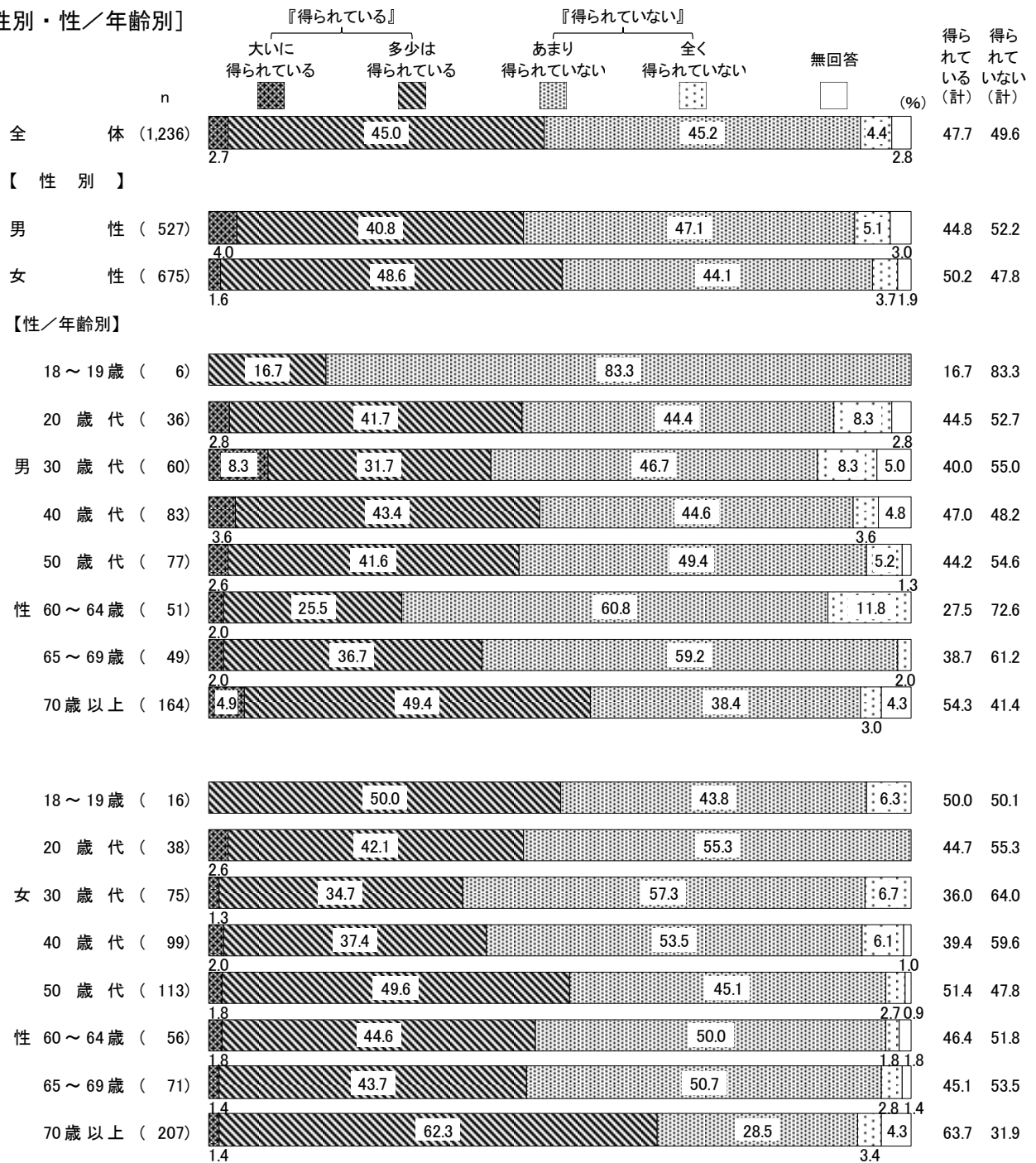
(n=1,236)

全体でみると、「大いに得られている」(2.7%)と「多少は得られている」(45.0%)の2つを合わせた『得られている』(47.7%)は4割台半ばを超えている。一方、「あまり得られていない」(45.2%)、「全く得られていない」(4.4%)の2つを合わせた『得られていない』(49.6%)は5割弱となっている。



前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

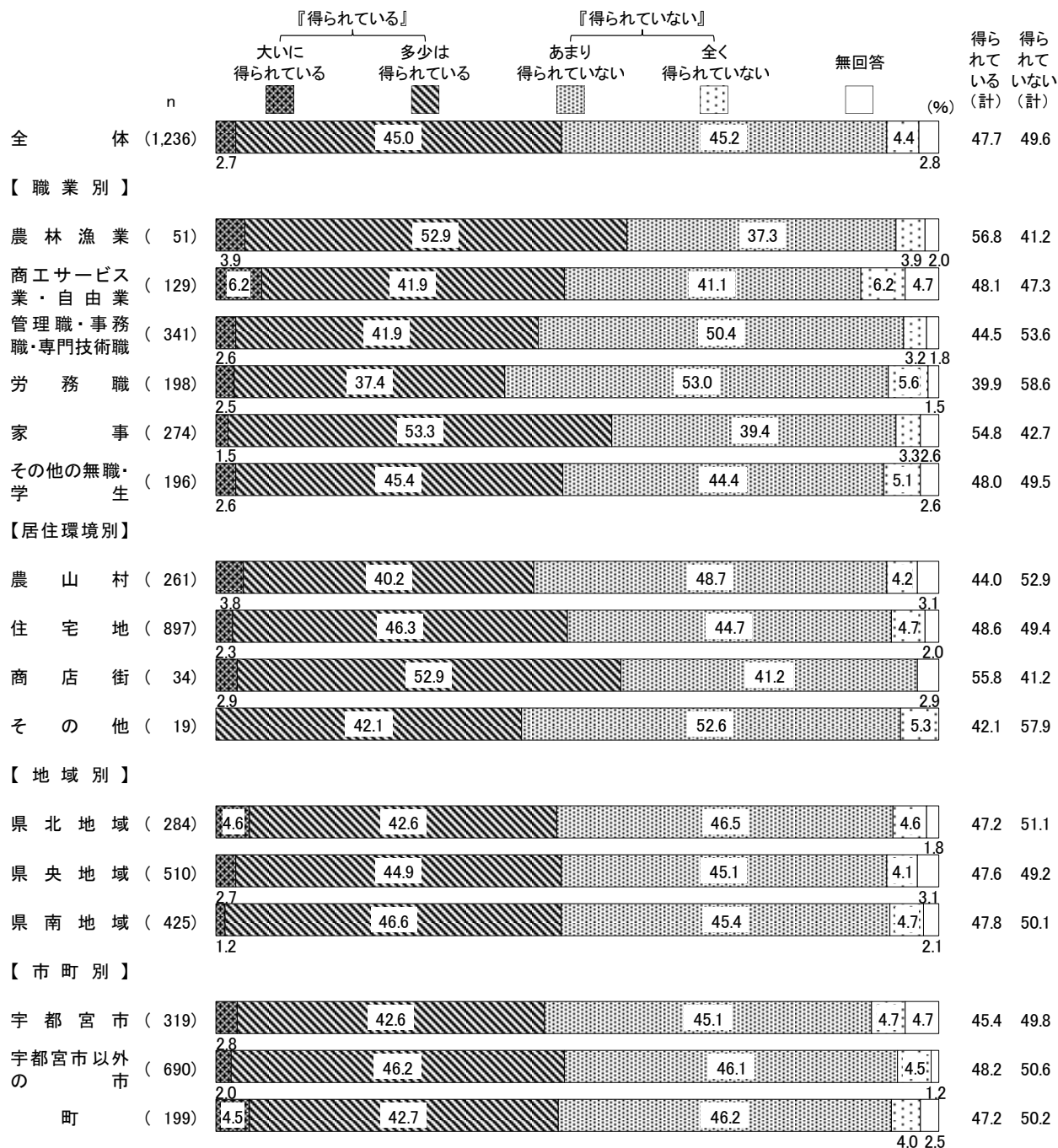
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『得られている』では〈女性〉(50.2%)が〈男性〉(44.8%)より5.4ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『得られている』では〈女性70歳以上〉が63.7%と高くなっている。『得られていない』では〈男性60～64歳〉が72.6%、〈女性30歳代〉が64.0%、〈男性65～69歳〉が61.2%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、『得られている』では〈農林漁業〉が56.8%、〈家事〉が54.8%と高くなっている。

『得られていない』では〈労務職〉が58.6%と高くなっている。

居住環境別でみると、『得られている』では〈商店街〉が55.8%と高くなっている。

地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。